

# 図書館だより

第42号 平成19年12月17日  
高松工業高等専門学校図書館  
TEL (087) 869-3813  
FAX (087) 869-3948

## 平成19年度 1000ページ読破記入賞者

佳作 星新一の本  
1年2組 手島直人(てしまなおと)

佳作 佐賀のがばいばあちゃん  
1年1組 眞鍋卓嗣(まなべたくじ)

応募数…227編



### 読破記講評

一般教育科 国語  
長谷川 隆



図書館主催の夏休み1000ページ読破記コンクールに、今年度は227編もの応募がありました。1冊読むとそれに触発されて次々と本を読みたくてくるという思いを持った人は少なくないでしょう。読破記コンクールは、そのような経験を味わってもらおうというねらいで企画されたもので、今年もたくさんの方が本漬けになってくれたようです。

佳作の1編目は、1年2組 手島直人(てしまなおと)君の「星新一の本」です。何十年か前に、私も星新一の本を読んでいたことがあります。最近少し読み返しているのですが、少しも色あせていないのを感じます。手島君の文章を読んでその理由がわかりました。「大金」といっても時代によって具体的な額は違います。10万円が大金の時代もあれば、1000万円でも大金と感じられない、現代のような時代もあります。星新一は「10万円」と書かず、「大金」と書きます。「大金」と書かれると、具体的な額は読者自身が考えなければなりません。「読む」のに苦労しますが、イメージを十分に働かしさえすれば、いつでもどこでも通用する作品になりうるのです。星新一はそのような普遍的なものに強く魅入られた作家なのでしょう。

佳作の2編目は、1年1組 眞鍋卓嗣(たくじ)君の「佐賀のがばいばあちゃん」です。読書をする心に残る言葉があります。眞鍋君の場合は

「人間は死ぬまで夢を持って！その夢が叶わなくても、しょせん夢だから。」という、がばいばあちゃんという言葉でした。とても味のある言葉です。相反する、「死ぬまで」と「しょせん」を、凝縮して平易に表現しています。この言葉からだけでも年輪というものが感じられるではありませんか。

ところで、夏休みの「読書感想文コンクール」佳作も「図書館だより」に掲載しています。建設環境工学科2年 島川裕次(ゆうじ)君の「『博士の愛した数式』を読んで」です。感想文の最初に、「この作品を書こうとしたきっかけは、授業でこの書物を読んだことから始まる。とても素晴らしい作品で、どうしても続きが読みたくなった。」と書いてありました。これは国語の授業でこの作品の一部を扱ったことを書いているのだと思います。教師莫利に尽きますが、それより何より、この小説自体に魅力があるのではないのでしょうか。拝金主義の現代においては、博士のような知的発見に取りつかれた生き方が、逆に光って見えるような気がします。

最後になりましたが、昨年度同様、今年度も読破記に優秀賞該当作品がありませんでした。その原因の一つは、「1000字以上」という字数にあるのかもしれませんが、「1000字」なので、四百字詰原稿用紙3枚ぐらいでいいのだと思って書く人が多いような気がします。書くことより読むことに主眼を置いて読破記を企画しているので、それでも一向にかまわないのですが、どうしても食い足りません。「1000字以上」の「以上」にも注目してください。2000字でも、3000字でもよいのです。書きたいことを思う存分書くのも悪くありませんよ。

(はせがわ・たかし)

## 1000ページ読破記 佳作作品

## 星新一の本

1年2組 手島 直人

どんなジャンルの本を千ページ読もうか迷いながら図書館の棚を見ていると、「星新一」の名前に目とまった。星新一といえば短編小説で有名であり、家にも数冊あるのを思い出した。そこで僕は、星新一の本を三冊、ショートショートの作品集を二冊読んで、その体験文を書くことにした。

読み進めるうちに、短編小説のよさが少しずつ分かってくるようになった。そのよさとは、まず手軽なこと。一つの話あたり三分もかけずに読むことができる。これは大いにありがたいことで、勉強の息抜き、テレビのコマーシャルの合間にも読むことが十分加能なのだ。

次に内容。長編のものとは違い、登場人物がたくさん出てくることはめったにないので、名前や特徴を覚えておかなくてもいいのだ。それに加え、話の展開が早い。話がサクサク進んでゆくの、読んでいて飽きない。そんなところに僕は引かれた。

読み終わると気付いた星新一の作品の特徴、それは、具体的な地名・人名といった固有名詞はあまり登場させないことだ。例えば、「百万円」とは書かずに「大金」あるいは「豪華な食事を二回すれば消えてしまう額」などと表現すること。それによって、地域・社会環境・時代に関係なく読むことができるのだ。また、このような表現を探しながら読むと、一粒で二度おいしいお

まけ要素となるのだ。今から二十数年前の作品でも、何の違和感も無く読めるのはこのおかげではないだろうかと思う。

他にも、物語の主人公としてよく登場する「エヌ氏」。これは星新一の作品を特徴づけるキーワードとなっているほどだ。作品ごとにエヌ氏の境遇・容姿・年齢・性格などが異なっている。だが、話が違っても同一人物ではないかと僕は思う。

短編はあまり好きではないという人がいる。理由は「話が短すぎて分からない」、「くだらない」などである。確かに中にはくだらないと感じる作品もあるし、意味が分からない作品もある。だが、そこがいいのだ。意味が分からない作品は、自分なりに考えてみる。くだらない作品は、自分で続きを考えてみるなど、また違った楽しみ方ができるのだ。これが楽しいから短編を読むのはやめられないのだ。

まとまっている作品ではなく、少しもやもやした所がある作品を読み、それを自分で考察すること。それもまた短編の特徴の一つなのだ。

これを機に、もっと他の短編小説を読んでみたくなった。まずは星さんの作品を読破してみようと思う。

「つねならぬ話」新潮文庫 星新一	206p
「ご依頼の件」新潮文庫 星新一	325p
「未来いそぶ」新潮文庫 星新一	272p
「ショートショートの広場1」講談社文庫 星新一・編	323p
「ショートショートの広場14」講談社文庫 阿刀田高・編	261p

(てしま・なおと)

## 佐賀のがばいばあちゃん

1年1組 眞鍋 卓嗣

今年一月「佐賀のがばいばあちゃん」のドラマが放送されたらしい。そのころ僕は、高専に入ることを目標に勉強していたので、二時間半ものテレビドラマを見ることはなかった。母はそのテレビを見た後、本屋で本を買ってきて、勉強している僕の隣で、一人げらげら笑って僕は腹立たしく思ったことを覚えている。

この夏休みに千ページ読破の宿題が出ていることを知った母は、「あんたもがばいばあちゃん読んでみたら。読書嫌いのあんたでもおもしろいから一日一冊は読めるで。シリーズで五冊あるから千ページなんてすぐよ。」と言って薦めてくれた。最初はあまりのり気でなかったけれど、読み始めるとほんとおもしろくて、一日一冊本間に五日間で読んでしまった。

わずか八歳で母親と引き離され、佐賀のばあちゃんのところで暮らすことになった昭広少年。でもばあちゃんにはかわいそうだからと甘やかしたり、同情したりせず、一人の同居人としてかまどでのご飯炊きや、川の水を何十杯も運んでのふる炊きをやらせた。貧乏で食べるものさえ十分でなく、おなかが減るのは気のせいや、とかおなかが減って夜中に目が覚めたらそれは夢や、と言い放つばあちゃん。貧乏でも考え方がいつも前向きで、明るいからよかったのだと思う。今のようにならば、豊かでものがあふれる時代なのに、働かないニート、部屋の中に閉じこもってしまうひきこもりに対して、周りの大人は腫れ物に触るようにはやさしすぎる。おなかが減るだろうからと言ってご飯を部屋の前まで運ぶから、部屋の外に出ようとしな。本当におなかが減ったら、餓死するよりは外に出てくるはずだ。また自分が必要とされていることがわかれば、がんばって働

くようになる。やるべきこと=仕事を与えてやればいいのだ。ただ優しいのが愛情なのではなく、どんな人も一人の人間として認められ、少々厳しいことも言われた方が本当の愛情を感じるだろう。がばいばあちゃんのような大人に育てられたら、もっといい子たちが育つだろうと思った。

僕はがばいばあちゃんの言った言葉の中で、一番気に入ったのは「人間は死ぬまで夢を持って！その夢が叶わなくても、しょせん夢だから。」という言葉だ。僕はものづくりが好きだから高専をめざした。そして入学することができた。とりあえず夢は叶ったけれど、それで終わりではない。次の夢を持たなければいけない。専門教科の勉強は難しく、レポート作りも国語力のない僕には困難を極めている。しかし僕は機械システム研究部に所属して、ロボット作りをがんばっている。夢はロボコン出場。今はまだ一年生で先輩のしていることを見たり手伝っているだけだけれど、その経験を積み重ねていつかは自分のロボットを作りたい。学校を卒業して働くことになったら、当然ものづくりに関わっていきたい。僕の母は「同じ働くのなら、自分の好きなことを仕事にしていけたら幸せよ。」と言う。僕が高専を目指したときも「嫌々受験勉強をするより、好きな勉強ができる高専に入れるように努力してみたら。」と薦めてくれた。僕の夢はこれからも自分の好きなことに向けて、より具体的に大きく広がっていくだろう。

作 者	島田 洋七	233ページ
書 名	佐賀のがばいばあちゃん	276ページ
	幸せのトランク	205ページ
	笑顔で生きたい！	203ページ
	かあちゃんに会いたい	252ページ
出版社名	集英社文庫	

(まなべ・たくじ)

## 読書感想文 佳作作品

## 「博士の愛した数式」を読んで

2年C組 島川 裕次

まず始めにこの作品を書こうとしたきっかけは、授業でこの書物を読んだことから始まる。とてもすばらしい作品で、どうしても続きが読みたくなった。

私は数学が大好きである。なぜなら問題をたくさん解けば解くほど数学の世界に入り込んで、正解した時には、何とも言えない心地よさを感じるのだ。しかし、数学の世界というものは極めて謎で不愛想なものである。逆に国語の世界というものは単調で愛想のよいものである。たとえば、「青空」という言葉があるが、その文字を眺めていると、自然と雲一つない青空を誰もが想像するだろう。しかし、「4」という自然数は眺めていても何も想像しないし単純に「4」とはつきり言うことしかできない。それは量以外の何物をも表現していないのである。そう自己主張した後は、ムスツとしてそこに立っているだけである。質を捨象したものが数なのだから当然といえば当然かもしれないが、愛想も何もあったものではない。さらに気に食わないのは、文章問題などによく使用される「AとBの中点Pを通る～」などという記述である。「東京と福岡の中間地点にある大阪」とでもあれば、イメージもわき、親しみももてる。ところが「AとBの中点P」という言い方は、わざわざその親しみを消し去って、誰の気持ちも受けつけない頑固な顔に変えてしまっているのだ。ちょうど、この「博士の愛した数式」に出てくる「博士」の第一印象のように。

この作品は80分しか記憶を維持できぬ数学者と、ある母子の交流の話だ。この物語を読んで、数学のことをもっと好きになり、関心をもてた。また博士が語る数の世界に耳を傾けるうちに、数というものがこの世界の秩序にかかわっており、それは世界の美しさにつながっているのだという、強い思いをいただくことができた。

たとえば博士は「完全数」について説く。自分以外の全ての約数の和がそれ自身に等しい数である完全数について、博士は「完全の意味を真に体現する数字」だとのべ、百億以下に存在するたった5つの完全数を具体的にあげ、数が大きくなるほど見つけるのは困難であることや、過剰数と不足数など、この数字をめぐる特徴を話す。この博士の言葉を聞いたとたん、実は世界には秩序があり、しかしその先にはまだ人間が知らない調和や美しさが隠されている、ということの一端が伝わってくる。無味乾燥な数字は、説明を聞いた後は表情を持ち始める。主人

公も、「博士」の説明を聞いたあとでは、それらは最早ただの数字ではなかった。人知れず18は過剰な荷物の重みに耐え、14は欠落した空白の前と思うのだ。私が最もそれを感じたのは、この主人公と同様に、素数の説明を聞いたときだ。

私は中学で素数を習った時、妙な気持ちにおそわれた。素数はそれ以後の数学の勉強には直接にはあまり役に立たないだけに、不思議とその意味を考えてしまう数字なのだ。そのときは、その妙な気持ちの正体がはっきりとはわからなかった。だが、私のほんやりとした気持ちは、主人公の次の言葉で明瞭な輪郭を与えられた。「私が推察するに、素数の魅力は、それがどういう秩序で出現するか、説明できないところにあるのではないかと思われた。この悩ましい気紛れさ加減が、完璧な美人を追い求める博士を、虜にしてしまっているのだ。」

私たちが日常使う数字は整数、あとはせいぜい小数と分数、その程度である。その間にどんな関係があり、いかなる秩序が潜んでいるのか、などとは考えもしない。ところが、たとえ28という何の変哲もない数字でさえ、それは完全数として、世界の秩序の中にハッキリとした位置を占めており、しかもそれは百億以内にたった五つしかない貴重なものなのだ。そこには、私たちがいかに日常貧しい概念の世界のなかに暮らしているのか、他方で、その私たちの意識とは独立して世界そのものはいかに豊かで美しく広がっているのか、ということが明確に示されている。私たちがそれに気づいていないだけなのだ。それは数だけの話ではない。世界はすべて、そのようにできているのだ。

博士は、主人公にこう語る。「自分が生まれるずっと以前から、誰にも気づかれずにそこに存在している定理を、掘り起こすんだ。神の手帳にだけ記されている真理を、一行ずつ、書き写してゆくようなものだ。その手帳がどこにあって、いつ開かれているのか、誰にもわからない。」主人公が、博士の記憶をまさに「掘り起こす」ように探っていた時、その奥には美しい恋の物語が秘められていた。また、最初は近寄り難くみえた博士も、主人公の息子との交流の中で別人のような側面を見せる。それは「発明」された美しさやあたたかさではない。すでに存在していて、私たちがそれを見つけたのだ。ほんやりと見えていけば気づかない世界の美しさは、分け入ってみれば、初めて見えてくることができる。この本と出会えて、本当によかったと思う。

小川洋子著「博士の愛した数式」新潮社

(しまかわ・ゆうじ)

## 本との出会い

一般教育科 英語 有道 祐子



4年前、この学校に赴任してすぐの頃、図書館だよりに「漫画のススメ」という題名で原稿を書きました。当時私は、図書館だよりに紹介された本が図書館に購入されるということを知りませんでした。そのお陰で、この学校の図書館には「花より男子」という漫画本が揃えられているわけですが、私としては、学生が本校図書館のマーク入り「花より男子」を読んでいるのを目にするたびに、どこか肩身の狭い思いをしているのです。と言うわけで、縁あってまた原稿を書かさせていただくことになりましたので、今回こそは、普通の小説について書きたいと思います。

私は遠藤周作という作家の本が好きですが、中でも「彼の生き方」という本が一番好きです。主人公は、人と交流することが不得手な、けれども猿の研究においては右に出る者がいないという男性です。恋愛においても、仕事においても、一途な主人公の姿に感銘を受けることと思います。決して要領のよい生き方ではないかも知れませんが、処世術に長けたり、周りに流されたりする生き方より、自分の信じた道を貫き、一つのこと、一人の人に人生を捧げるような「彼の生き方」に、自分も頑張ろうという活力を与えられます。

同じような感動を与えてくれる作品で、「ショーシャンクの空に」や「ガタカ」という映画があります。興行成績は芳しくなかったけれども、映画好きの人にはよく知られた作品で、これらもお勧めです。ぜひ一度観てみてください。

(ありみち・ゆうこ)

## 「高専出身の作家と出会って」

機械工学科 高橋 洋一



実を言うと私は子供の頃から本を読むことがあまり好きではなく、漫画でさえ読むことがほとんどありません。最近、読んだ本を思い起こしてみると専門書しか出てこないというのが現実です。私にとって本とは楽しむものではなく、必要な情報を得るだけのものになっているようで少し寂しい感じがします。

そんな私でも大学生の時に「乙一（おついち）」という小説家を書いた「夏と花火と私の死体」を苦戦しながらも読み進め、多くのことを考えさせられました。みなさんは「乙一」という小説家をご存じでしょうか。彼は面白い経歴の持ち主で久留米高専卒業後、豊橋技科大に編入学しているのです。先に挙げた「夏と花火と私の死体」は、彼のデビュー作品でノンフィクション大賞を受賞しています。デビューは、17歳で執筆はなんと16歳の時だそうです。高専1年生の時にこの小説を書き上げ、2年生で出版しているのだから驚きです。また、「乙一」という名前は、使用していた関数電卓が「Z-1」（本高専も昔はこのポケコン）だったことに由来しているそうで、発想がいかにも高専生らしく親近感を覚えます。さて、この本

の内容はというと、主人公である女の子が友達に木から落とされ、殺されてしまい、それに気づいた幼い2人の兄妹がその女の子の死体を隠し通そうとするサスペンスホラー的なものです。主人公が死ぬところから物語が始まり、兄妹の行動を主人公（死体）からの視点で描かれているところが他の小説にはない不思議な魅力のひとつではないでしょうか。また、幼い子供がなんのためらいもなく淡々と死体を隠すという行動は、現実にと考えると非常に恐怖心を覚え、「死とは何か」ということを改めて考えさせられます。近年、若年層による凶悪犯罪が増えていますがこの小説の描写と重なり危機感を抱いたのを覚えています。もっとも疑問なのはなぜこの作品がノンフィクション大賞かということですが…

それはさておき、この本は、読書する機会が少ない私でも多くのことを考えさせられ、また大切なことを教えてくれた1冊だと思います。私を含めみなさんの高専生の先輩でもある彼の作品を一度読んでみてはいかがでしょうか。本校の図書館にも彼の小説が数多くあります。しかも、比較的短い小説が多いので読書があまり得意でない人も気軽に読めるのでお勧めですよ。

「夏と花火と私の死体」乙一著 集英社文庫

(たかはし・よういち)

『昭和史入門』

保阪正康 (文春新書)

昭和史に関する多くの著書を発表してきた作家による入門書。「もし自分があの時代に生きていたらどのように生きてだろうか」という観点から、昭和史をふりかえると、新たな“事実”が見えてくるようです。平易な文章で綴られている点でも、昭和史への“入り口”としては最適だと思います。

一般教育科教員 権藤 典明

戦争が遺したもの

鶴見俊輔・上野千鶴子・小熊英二 (新曜社)

対談集ですが、この本1冊読むことで戦後日本の思想史が俯瞰できます。取り上げられている多数の本を枝を刈るように漁っていくのもいいでしょう。知的でレベルな大人への第一歩です。

一般教育科教員 出淵 幹郎

なるほど単位 長さm

平川光則 (日刊工業新聞社)

長さの単位「メートル (m)」の生い立ちから現在の定義に至るまでの分かりやすい解説に始まり、長さに関する話題がいっぱいの読み物です。宇宙スケールから極微まで、身の回りから最先端まで、こと長さに関するトリビア満載です。

制御情報工学科教員 平岡 延章

「GROUNDSCAPE」  
篠原修の風景デザイン

東京大学景観研究室 (鹿島出版会)

本書は七つの風景デザインの写真や配置図・詳細図で、風景をつくる仕事に携わった土木のありようを表現している。街づくりへの想いは「恋人達が行った時、その橋や川の水辺がはたして人間の感情を受け止める舞台になっているだろうか？」

建設環境工学科教員 松原 三郎

モータの事典

曾根悟・松井信行・堀洋一 (朝倉書店)

電気モータの動作原理・構造・制御法・応用を網羅した良書。今話題のモータから古典的モータまでこの一冊で理解できる。ベクトル制御はもとより、少々クラシックなモータ特性の表現もきちんと書かれ、引用文献も多い。電気モータを使うに当たりまず手に取りたい一冊である。

制御情報工学科教員 平岡 延章

Scilabで学ぶシステム制御の基礎

橋本洋志・石井千春・小林裕之・大山恭弘 (オーム社)

授業で使う“MATLAB”、便利ですね。でも個人ではとても買えない高価なソフトです。ところで、ほとんど同じ機能のソフトが、フリーでダウンロードできることを知っていますか？それが“Scilab”です。本書は、Scilabとその使い方を紹介した本です。「MATLAB/SCILABで理解する数値計算」櫻井哲也、東京大学出版会も参考に…。

制御情報工学科教員 平岡 延章

「マツ」の話 防災からみた一つの日本史

池谷 浩 (五月書房)

本書は日本の原風景を創り、我が国の防災に役立ち、日本人の心の木とも言えるマツからの日本史である。マツは我が国の地形・地質そして気候の自然状況において、土砂災害の砂防樹として緑の復元の主役となり、我々に安全や環境を提供しながら日本人の生活や文化に深く関わっている。

建設環境工学科教員 松原 三郎

ピンポンさん

城島 充 (講談社)

日本のトップアスリートは、肉体と脳の比率が恐ろしく多い人だと思えてなりません。この本は何度も世界チャンピオンになったあと、国際卓球連盟会長をつとめるなど、知性を兼ね備えた一流卓球選手荻村伊智朗の伝記です。高専卓球部員必読。

一般教育科教員 出淵 幹郎

句読点、記号・符号活用辞典

小学館辞典編集部編 (小学館)

出版に関わる人たちがまとめたタイトルに記号が三つ含まれる“変な辞典”です。和洋の記号を一同に取り揃えたオールスター全員集合です。記号の名称とともに、ワープロでの入力方法や文字記号コードが記載されており、実用性も十分です。眺めて楽しむのもいいかも…。

制御情報工学科教員 平岡 延章

ドグラ・マグラ

夢野久作 (角川書店)

全く以て不可解極まりない。不条理・無理解の極にある奇説奇論が押し並ひ羅列され、複雑精密奇妙面妖なる論舌で以て一筋の小説が象られる形而上的妄想的なそのシナリオ……理性的に過ぎる狂気の内容……読んだ者の脳髄を狙す幻魔作用。

精神迷宮地獄で善ければ、御暇潰しにどうぞ。

3年E組 矢野 正人

「楽園」(上・下)

宮部みゆき (文藝春秋)

一度読み始めたら止まらないおもしろさです。上下2冊、約800ページからなる作品ですが話の展開が速く一気に読めてしまいます。理不尽な運命を生きる母とその息子の切ない物語。「楽園」というタイトルの意味を物語の最後、しみじみ味わって欲しいです。

4年C組 森澤 海里

The MANZAI 4

あさのあつこ (ビュアフル文庫)

著者を見て知っている方も多いと思いますが、あさのあつこさんは「バッテリー」を執筆した方です。ポケの貴史とツッコミの歩、コンビ名「ロミジュリ」を中心に繰り広げられる青春ストーリー。4巻では歩の怨路について進展が！！

映画化も決定されたようです。

2年M組 多田 晴紀

新  
着  
図  
書  
か  
ら

わたしのいもうと  
松谷みよ子 (偕成社)

軽いからかいのつもりでやっているいじめが、いじめを受けている側にとってはいかにつらいものかを、少女の実話より訴えています。子供向けの短い絵本ですが、私は読んで涙を抑えることができませんでした。学内で、社会でいじめがなくなるよう是非みなさんに読んでもらいたいです。

電気情報工学科教員 辻 正敏

フォレスト・ガンブ(一期一会)  
ウィルストン・グルーム

ガンブは英語で間抜けやうすのろという意味がある。つまり本のタイトルは間抜けなフォレストとなる。人よりも知能指数は劣るが純真な心と周囲の人々の協力を得ながら数々の成功を収めていく“うすのろフォレスト”の半生をアメリカの歴史を交えながら描いたヒューマンドラマである。

4年E組 佐藤 誠治

ハリー・ポッターと謎のプリンス  
Joanne Kathleen Rowling

あなたはハリーポッターの本を読んだことがありますか。ハリーポッターは今、世界で最も有名な子供の魔法使いです。なぜなら彼の物語が47の言語で出版され、世界中の多くの人々によって読まれているからです。この本では物語が大きく動きます、ぜひ読んでみてください。

3年C組 北山 雅邦

「NEXT」上下2巻

マイクル・クライトン (早川書房)

ドラマ「ER」でおなじみのマイクル・クライトンの作品。最先端の遺伝子テクノロジーにまつわるちょっと怖い話です。本書の冒頭に「本書はフィクションである。フィクションでない部分を除いて。」とあります。フィクションでない部分がどこのか気になってしまいます。

機械工学科教員 吉永 慎一

らき☆すた らき☆すた殺人事件

原作 美水かがみ 著 竹井10日 (角川スニーカー文庫)

主人公、泉こなたが学校帰りの本屋で殺人事件に遭遇し、その被害者は友人の一人だった。犯人捜査を始めたこなた達は次の事件に巻き込まれることとなる。という原作の美水さんやらき☆すたファンもびっくりの物語の幕が今開かれる!!

3年M組 双田 慎二

我が呼び声に応えよ獣

秋田禎信 (富士見書房)

非法金の貸し魔術士オーフェンは地人ボルガンの紹介で結婚詐欺をすることに。しかし、結婚詐欺がばれて、しかも怪物が襲来する。だが、その怪物こそがオーフェンがさがしていた姉・アザリーであった…。

2年E組 大前 知史



■新着CD

タイトル	アーティスト
劇	ACIDMAN
C	Base Ball Bear
monobright one	monobright
フェイヴァリット・ワースト・ナイトメア	アーケティック・モンキーズ
ベスト・ダム・シング	アヴリル・ラヴィーン
Rod Snake Shock Service	浅井健一
ペーパー・ウォールズ	イエローカード
Scratch	木村カエラ
MTVアンブラグド	コーン
ライス	ジ・アンサー
生命力	チャットモンチー
ワン・マン・レヴォリューション	ナイトウォッチマン
ミロード	バトルス
ヴォルタ	ビョーク
ピリー・ザ・ヒッツ	ピリー・ジョエル
ワルツィングキャット・タイフアイター〜2台のピアノによるアメリカ	プリムローズ・マジック
センド・アウェイ・ザ・タイガース	マニック・ストリート・プリーチャーズ
イット・ウオント・ビー・スーン・ビフォー・ロング	マルーン5
ユナイテッド・アポミネーションズ	メガデス
サウンド・オブ・メロディーズ	リーランド
ミニッツ・トゥ・ミッドナイト	リンキン・パーク

■新着DVD

タイトル
バイレーツ・オブ・カリビアン/ワールド・エンド
ハリーポッターと不死鳥の騎士団

図書館からのお知らせ

◆ 年末年始の開館時間等について

年末年始の開館時間等は、下記のとおりですので  
よろしく願います。

- 12月22日～24日 終日閉館
- 12月25日～28日 9:00～17:00
- 12月29日～1月6日 終日閉館
- 1月7日～平常通り 9:00～20:00

◆ 冬季休業中の長期貸出について

恒例の冬季休業中の長期貸出(学生のみ対象)を  
下記のとおり行います。

貸出開始日: 12月17日(月)～

返却期日: 1月8日(火)

貸出冊数: 20冊まで貸出OK

編集後記

10月に東京で開かれた全国図書館大会にはじめて参加させていただきました。どこの高専でも学生が利用しやすい図書館をめざして、いろいろ工夫されていることがよく分かりました。高松高専も使い勝手のよい図書館をめざしたい、そのためにも、利用者である学生諸君の図書館に対する提案や要望をぜひ寄せてほしいと希望します。(図書館長)